

普及活動情勢報告

情勢報告（平成29年12月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ニラの栽培技術向上に向けて ～JA四万十ニラ部会立西支部会の開催～



環境制御機器導入
ほ場での現地検討

12月11日、JA四万十ニラ部会立西支部会が開催され、生産者9戸が参加しました。

農家ほ場では、環境制御機器の活用状況やニラの生育状況を見てもらいました。また、研修会として販売状況やエコシステム栽培への取組み等について報告しました。

普及所は、炭酸ガス施用方法、効果について説明し、生産者にその効果を見てもらいました。

今後、JA四万十と連携し、農家の経営安定及び栽培技術向上に向けて支援を行っていきます。

売上げ1億円突破！さらなる向上を ～夏秋ピーマン部会反省会の開催～



反省会の様子

12月11日、JA四万十夏秋ピーマン部会反省会が開催され、生産者24名が参加しました。

本年度は高単価にも恵まれ、過去2回目の売上げ1億円突破となり、平均反収は雨よけ部門では9t、露地部門では7tとまずまずの収量でした。しかしながら、いくつかのハウスでは疫病や白絹病の発生で、減収になるケースもみられました。

普及所は、栽培終了から次作に向けての土壌防除対策について、情報提供しました。

次作から、新規の部会員が増え、作付面積も増加する予定で、さらなる技術向上を目指して支援を行っていきます。

環境制御・養液栽培技術の普及 ～JA四万十ミョウガ部会現地研修会の開催～



研修会の様子

11月29日と12月22日に興津地区で現地研修会が開催され、延べ24名の生産者が参加しました。

現地研修会では、土耕栽培と養液栽培での篤農家技術や環境制御技術を学び、新設の耐候性ハウスの見学なども行いました。

農家からは篤農家の栽培方法や温度管理などについて活発に質問が出されました。

普及所は、変温管理の情報提供やタブレットを用いて適正な温度管理や二酸化炭素濃度などを説明しました。

今後もJAと連携して、農家の所得向上を目指します。

土地利用型園芸作物の検討 ～中山間農業複合経営拠点のキャベツの収穫始まる～



収穫されたキャベツ

11月23日から、中山間農業複合経営拠点の（一社）四万十農産が試作しているキャベツの収穫が始まりました。

水田15aで9月に定植されたもので、JA四万十と普及所が一体となり技術・経営・販売面の支援を行ってきました。出荷先は地元の学校給食や直売所と併せ、加工業務用として園芸連を通じた販売も行っています。

本年は、定植後の乾燥や台風被害により、生育のばらつきがありました。浜田代表理事は「春作ジャガイモの後作として有望であり、産地化を進めていきたい」と意気込んでいます。

収穫は1月末まで続く予定で、普及所は水田を有効に活用できる品目として、定着に向けた支援を行っていきます

民間企業からのIoT活用提案 ～中山間農業複合経営拠点と民間企業の協議～



民間企業による提案

12月18、19日、四万十町役場会議室で複合経営拠点2社と民間企業3社がIoTの活用について協議し、複合経営拠点から5名が参加しました。

企業側からは、ほ場管理や労務管理システム、ドローンによるセンシング技術の開発などについての提案がありました。一方、複合経営拠点側は、農地情報の見える化や生産履歴、ドローンによる病害虫防除などに関心がありました。

提案された内容については、引き続き協議していくこととなり、普及所は、今後も町役場などと連携し、土地利用型農業へのIoTの導入に向けた取組みを支援していきます。

女性農業者の学びの場

～手書きPOP実践講座の開催～



手書きPOP 作成中

12月13日、高知6次産業化サポートセンターのプランナー派遣を活用し、高南農業改良普及所で手書きPOP実践講座を開催しました。

直販所等で野菜や加工品を販売している女性農業者4名が参加し講師のポップアート研究所の臼井浩二氏から手書きPOPの作成手順を学び、実際に手書きPOPを作成しました。

参加者全員から「お客さんへのメッセージの伝え方が（書き方）がわかった」、「参加してよかった」という声を聞くことができました。

普及所は、今後も女性農業者のニーズを反映させた講座を開催していきます。

本年度のブランド米生産を振り返り ～JA四万十エコ栽培米生産部会出荷反省会の開催～



活動報告の説明

12月18日、JA四万十本所で本年度のJA四万十エコ栽培米生産部会出荷反省会を開催し13名の生産者が参加しました。

普及所は、本年度の栽培状況と、実証試験の結果をもとに四万十町における‘にこまる’の収穫適期について情報提供しました。

生産者からは「作柄もよく、指導された収穫時期に収穫したが作業性等も問題なかった。」といった声が聞かれました。

普及所は今後も、四万十町のブランド米の生産に向け、栽培技術指導や販売について支援していきます。

次作に向けて ～JA高知はた大正支所甘長とうがらし・シシトウ反省会の開催



反省会の様子

12月21日、甘長トウガラシ5戸、シシトウ10戸の生産者が参加して29年度の栽培反省会が行われました。

北幡営農センターと普及所からは、個別の出荷実績（収量・品質）を基に、次作の収量や品質の目標値を提案しました。

生産者からは、市場事故防止に向けた選果選別や病害虫防除についての質問等がありました。

普及所は今後も、収量・品質アップによる所得向上を目指し、北幡営農センターと共に、栽培指導を支援していきます。